

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名		嬉野市立吉田中学校					
-----	--	-----------	--	--	--	--	--

1 前年度 評価結果の概要	・小学校や地域、関係機関との連携・協力を得ながら学校運営に取り組んだが、次年度は、教育目標にある「地域とともに」「9か年の学び」をより意識し、小学校との連携、地域のもの、ひと、ことを活用した実践をさらに推進し、ふるさと吉田を誇りに思う気持ちを高めていきたい。 ・県教育委員会の合言葉「ほめるから、はじめる、はじまる。」のもと、全職員で生徒の自己肯定感、自己有用感の向上を目指して、活躍の機会創出に取り組み、変容が見られてきている。次年度も継続しながら、発達支持的生徒指導をより意識し、生徒自身が自発的・主体的に成長・発達しようとする環境づくりや仲間づくりに取り組む。 ・NIEの実践については、PDCAサイクルを意識し、随時見直ししながら推進し、社会への関心を高めたり、思考力や表現力の向上に繋がってきている。この2か年間の実践を次年度の教育課程に生かし、本校の特色として育てていきたい。 ・学力向上が喫緊の課題である。基礎的・基本的な知識・技能の定着と学力向上を支える学級経営の充実に取り組む必要がある。また、学力向上に不可欠な家庭学習の習慣付けと内容充実に、小学校や家庭と連携して取り組まなければならない。 ・時間外勤務時間が前年度と比較し減少するなど一定の業務改善の成果を得ることができているが、次年度以降も生徒と関わる時間の確保や活動の充実を図りながら、働き方改革に取り組む。							
2 学校教育目標	賢く 優しく たくましい 生徒の育成 ～地域とともに、9カ年の学びのなかで～							
3 本年度の重点目標	①確かな学力の育成 ②豊かな心の育成 ③たくましい心身の育成 ④ふるさとを誇りに思う教育の推進 ⑤小中一貫教育の推進 ⑤働きやすい職場環境づくりの推進							
4 重点取組内容・成果指標					5 最終評価			主な担当者
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言	
●学力の向上	○「吉田メソッド」の実践 ○基礎・基本の定着 ○家庭学習の習慣化	○「吉田メソッド」の流れに沿った授業実践をしている教員80%以上 ○朝の「学びタイム」に意欲的に取り組んでいる生徒80%以上 ○「先生に対して、質問などがしやすかったり、授業が分かりやすかったりしている。」を70%以上 ○家庭学習を毎日30分未満の生徒30%以下	・「授業づくりのチェックシート(学校独自)」を活用した授業実践と改善 ・生徒の実情に応じた「学びタイム」の取組 ・「西部型授業学力向上の手引き」を再度確認し、各教科の授業で主体的・対話的で深い学びへを軸とした授業改善と基礎基本の定着の徹底に取り組む。 ・「家庭学習の指導の手引き(佐賀県教育委員会)」と「吉田小・中学校家庭学習のてびき」の活用					
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や人権学習に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒80%以上	・道徳科の授業の充実 ・ふれあい道徳の実施					
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校は、いじめがないように温かい雰囲気づくりをしている」という生徒・保護者の肯定的な回答80%以上 ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止のための取組、いじめ事案対処等)について組織的な対応ができていると回答した職員85%以上	・いじめについて教職員と保護者に共通した理解と実践の情報共有 ・いじめアンケート(県標準式2回)の実施 ・毎月の教育相談アンケートの活用					
	●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・よいところを「認める」と「ほめる」の違いを意識し、自他を尊重し、支持的風土のある学級・学校づくりの推進 ・自己実現に向けて、職場体験学習の実施やキャリア教育等の充実					
	○生徒実行委員会との運動	○生徒アンケートにおいて「学校生活は充実している」と肯定的に回答した生徒80%以上	・生徒主体の人権・同和教育学習及びいじめに関する学習の実施					
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「睡眠時間は8時間以上とれている」と肯定的な回答をした生徒70%以上 ○朝食を毎日きちんと食べて登校している生徒90%以上 ●「健康に良い食事をしている」生徒90%以上	・毎朝の健康観察で生徒の睡眠時間と朝食喫食状況の把握 ・生徒及び保護者への啓発を目的とした保健だよりの発行 ・給食センター発行の食育だよりの活用					
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の「取り返しのつかない事故」を0(ゼロ)にする	・防災・安全指導を充実させ、日常生活における生徒の危機予測能力を育む。					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・業務に関するデータの共有とICTの効果的な活用 ・定時退勤日の推進 ・部活動休養日の確実な実施 ・部活動終了時刻と生徒の完全下校時刻の見直し					
	○業務の効率化により、生徒と関わる時間の充実	○行事の見直しと実施内容を検討し、生徒と共に活動する時間の創出と充実を図る	・学校行事の内容(時間)の見直し ・職員朝会を水曜日(市内一斉部活動休養日)の放課後の職員連絡会に変更					
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員70%以上 ○支援を要する生徒の実態に応じたカリキュラム設定をする。	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有をする。					
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
評価項目	重点取組 重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言	
○9年間の学びを意識した小学校との一貫教育の充実	○9年間の学びを意識した小学校との一貫教育の充実	○吉田メソッドの授業づくりの研究・実践 ○小中交流活動の実施	・毎月の小中連絡会の開催 ・合同研修会の開催 ・小中相互の研究授業への参加 ・交流活動の更なる充実に向けた計画・運営・内容の見直し					
○地域とのつながりを大切にし、郷土愛を育む「吉田学」等の推進	○地域とのつながりを大切にし、郷土愛を育む「吉田学」等の推進	○「地域学習はふるさと吉田について理解するために役立っている」と肯定的な回答をした生徒80%以上	・地域学習の充実 ・地域に貢献する活動の実施 ・地域人材の活用					
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育								
5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・							